

(様式1) 実践事例

学校名	伊達市立小国小学校	校長名	鈴木 久		
住所	伊達市霊山町下小国中島26-1	児童生徒数	26	学級数	3
TEL	024-586-1444	ホームページアドレス	http://www.schoolweb.ne.jp/date/oguni-e/		

不易 日々の授業の充実！

1 少人数指導の計画

本校は、原発災害により、空間放射線量の高い環境の下、2年間の屋外活動自粛を強いられてきた。そのような中「満足度の高い学校づくりをめざして」を今年度の学校経営のテーマに据え、「どの子ども、思う存分、学べる環境づくり」の具現化に向けて全職員で取り組んでいる。

特に学力に関しては「少人数のよさを生かし、ゆるぎない学力を保障すること」を保護者へ伝え、「日々の授業の充実」「校内研修の充実」を学力向上グランドデザインに位置付けて授業力の向上に努めている。

2 実践の概要

(1) 日々の授業の充実

① めあての明確化

学習への主体的な取組を促すには、子ども一人一人が学習課題を確実に把握し「問い」をもつことが不可欠である。子どもにとって必要感のある課題設定、魅力ある学習材の提示に重点を置いている。授業を構想するにあたっては、「問いの生成」に力を入れている。

② 板書の構造化

子どもたちの素直なつぶやきをよく聴き取り、全員で共有していくという意識をもたせている。子どもの思いや考えを板書して可視化し、子ども同士の思考をつないで意味付けできるようにしている。

③ まとめの位置付け

めあてに対するまとめを必ず位置付け、理解度を確かめ、子どもの言葉をつないでまとめるよう努めている。

(2) 校内研修の充実

「教師の力以上に子どもは育たない」を合い言葉に校内研修を進めている。課題提示の仕方や子どもの見取り方、構造的な板書やまとめ方などについて外部講師を招聘して研修している。



3 実践の成果と課題

- 平成26年度全国学力学習状況調査や年度末のNRT学力検査から国語・算数ともに全国平均を大きく上回っており、改めて日々の授業に重点事項をもって取り組むことの大切さを認識している。
- 「わかる・できる授業」を組織するためには、子ども一人ひとりのレディネスを高めることが不可欠である。そのために「家庭学習の仕方の手引き」による家庭学習の習慣化やノート指導、メディアセレクトウィーク等を実施している。
- 幸いにも複式指導解消の教員が加配され、指導の効果が現れているが、今後は学校の指導力を落とさない多様な指導体制を整えていく必要がある。